

秩父市役所庁舎等建設工事設計業務についての提案

①敷地利用計画について

秩父の風土・歴史・人をつなぐ 『コラ・ショ』が『まちの力』を活性化させる

秩父の貴重な財産は、その風土・歴史・人にあります。人々の気持ちが高まる祭のように、秩父の人々が生き活きと活動をまちに展開したときに、未来が明るく開けます。私たちは意匠性・空間性・機能性・経済性をふまえながら、『コラ・ショ』から活動が展開し、「まちの力」を活性化させる敷地利用計画を提案します。

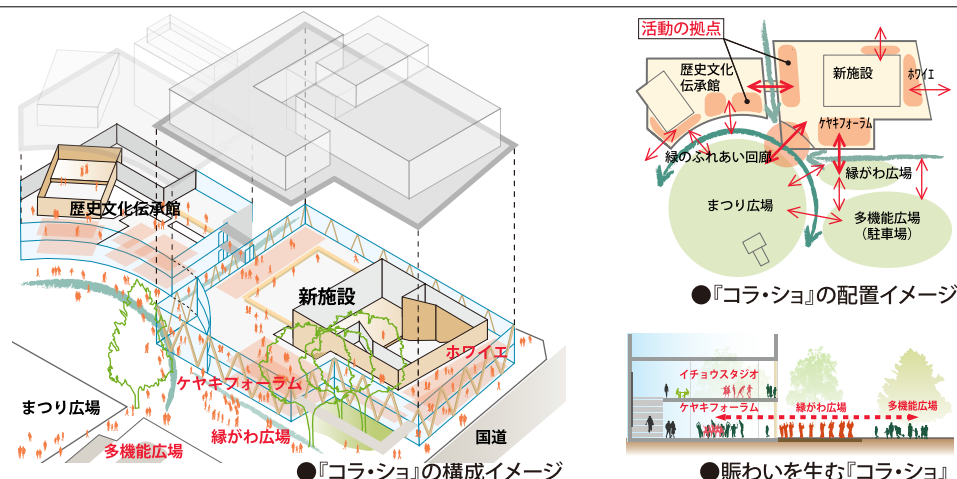
●新しい秩父市の活動拠点『コラ・ショ』

秩父の文化を世界へ発信する場として、新しい秩父市の顔＝市民活動の場『コラ・ショ』を配置します。低層部1・2階は、秩父の自然風土に育まれた「木」を使いながら、秩父を積極的にアピールします。

●全方位にひらき

賑わいと回遊性を生む『コラ・ショ』

『コラ・ショ』（ケヤキフォーラムをはじめとする会議室や練習室、ロビー、ホールホワイエ等）は建物外周に沿って配置し、周囲のまち・公園・広場に活動を見せる計画とすることで、周辺に賑わいをもたらします。



●『コラ・ショ』の構成イメージ

●賑わいを生む『コラ・ショ』

●まつり広場をはじめ、周辺のまちとの関係性を重視し、「豊かな場」をつくる配置計画

●まつり広場を活かすオープンスペース配置

敷地南側は「多機能広場」（駐車場）として、オープンスペースを確保することで、イベント時にまつり広場と一体利用ができるように計画します。

●4本のシンボル樹木を全て残す

土地の歴史を見守ってきたケヤキ・イチョウの4本のシンボル樹木を全て残し、それらを積極的に活かす配置計画とします。

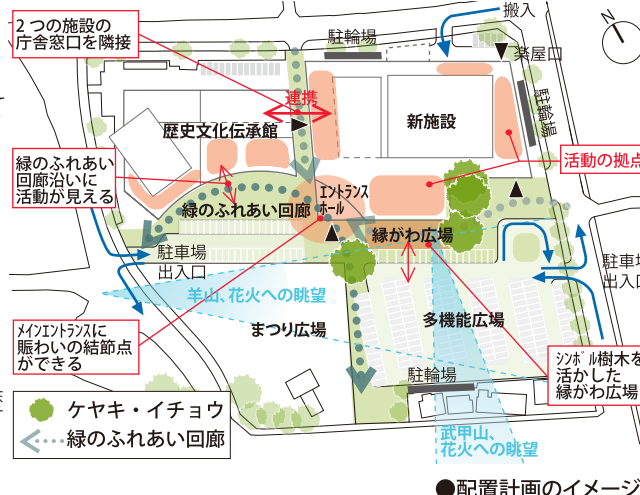
●まつり広場を囲む「緑のふれあい回廊」

まつり広場を囲む円弧状の「緑のふれあい回廊」を設けます。地域住民をはじめ利用者の利便性を高めると共に、武甲山や羊山公園を見通せ、既存樹のトチノキやケヤキ、イチョウのある四季の情緒あふれる回廊となります。

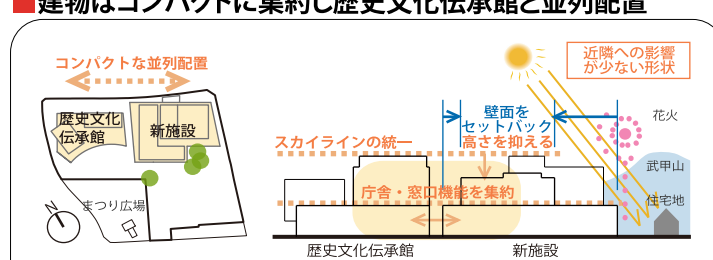
市民活動の場『コラ・ショ』を回廊に面して配置することで、賑わいを創出します。

●歴史文化伝承館と連携する

「緑のふれあい回廊」の中心に、円弧状のエントランスホールを設け、歴史文化伝承館や駐車場からの人の流れをスムーズに導きます。また歴史文化伝承館と隣接して庁舎の窓口部門や会議室などを配置し、各施設の連携利用をしやすくします。



●建物コンパクトに集約し歴史文化伝承館と並列配置



●コンパクトな建物配置のイメージ

●歴史文化伝承館と一体的なボリューム

歴史文化伝承館と街並みの連続性を意識した配置とし、建物ボリュームを揃えます。

●上層階をセットバックさせた建物形状

秩父往還（国道140号）から武甲山の眺め、団子坂を上る笠鉾、屋台を迎える花火など歴史的な風景を活かし見通せるよう、建物の上層階（3、4階）がセットバックした建物形状とします。

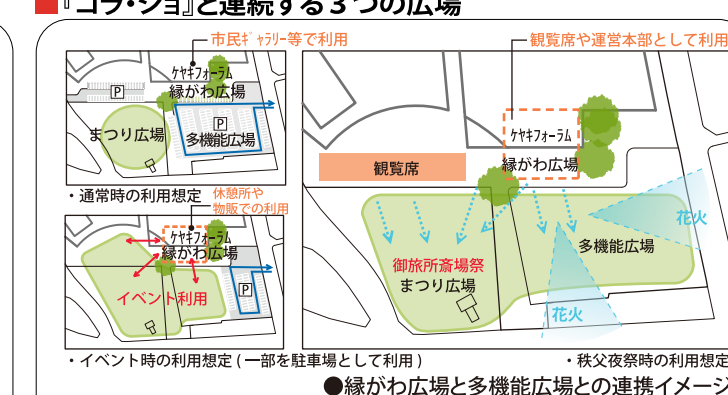
●建物高さを抑え、北側住宅地に配慮

建物の高さを歴史文化伝承館よりも低く抑え、北側住宅地への圧迫感や日影の影響を最小限にします。最高高さは歴史文化伝承館の高さと統一しスカイラインをそろえ、遠方からの景観に配慮します。

●ホールを接地させる

ホールは舞台レベルを接地させて建物高さとボリュームを抑え、同時に市民利用の利便性と安全性を確保します。

●『コラ・ショ』と連続する3つの広場



●シンボル樹木を活用した「緑がわ広場」

4本のシンボル樹木を中心に緑の「緑がわ広場」を計画します。イベント時には仮設ステージ等に利用でき、「ケヤキフォーラム」と「緑がわ広場」や「まつり広場」の一体利用により、活動の幅が広がり様々な人々が賑わう場となります。

●多目的に利用できる駐車場「多機能広場」

広場との連動利用時に駐車場エリアが柔軟に可変できるレイアウトとします。夜祭での仮設客席や災害時の避難場所としての利用を考慮し、車止め等のないフラットな計画とします。敷地全体で、合計210台分の平面駐車場を確保します。

②複合用途の建物のゾーニングについて

様々な活動の場が庁舎・ホールをつなぐ コンパクトな施設計画

様々な用途に利用可能な市民活動空間『コラ・ショ』を中心とした施設構成により、面積効率のよいコンパクトな施設としながら、市庁舎とホールの賑わいの相乗効果を高める計画とします。

●活動の場をつなげる回遊性のある構成

●ホールを庁舎がL字に囲む構成

敷地北東にホールを配置し、その南西をL字型に囲むように庁舎を配置することで、どの面にも建物の顔を向けた構成とします。

●市庁舎とホールを連携させる『コラ・ショ』

庁舎の市民が多く利用する市民活動空間（ケヤキフォーラムやイチョウスタジオ）や窓口、ホールのホワイエなど、それぞれの共用空間をリング状に配置し、回遊性をもち相互利用がしやすい計画とします。

●合理的で安全性に配慮した地上4層構成

建物の構成は地上4層までに抑えることで、各室レイアウトの可変性、避難安全性、周辺環境への圧迫感の緩和、コスト削減において優位となります。また、全ての階において一時間耐火構造となり、木造の採用検討も容易となります。

●低層階に市民サービス部門を集約

●歴史文化伝承館と連携が容易な庁舎窓口

1、2階の窓口部門は歴史文化伝承館との連携が図りやすい西側に配置し、充実したワンストップサービスを市民に提供します。

●ケヤキフォーラムとイチョウスタジオ

シンボル樹木のケヤキとイチョウを望むことの出来る場所に、市民が多目的に利用可能なケヤキフォーラム及び、イチョウスタジオを設置します。

●楽屋・練習室の多目的利用

ホール楽屋、練習室は舞台利用以外にも会議室等に利用可能な動線を確保します。

●3階：執行部

3階の執行部は武甲山への眺望に優れた南面配置とします。

●4階：議会部門

議会部門は4階の1フロア構成の計画とし、利便性、セキュリティに配慮します。

●利用時間の違いやセキュリティに配慮

簡単に設定できるセキュリティラインを設け、時間外や休日にも容易に管理可能とします。

●ホール遮音への配慮

ホール部門とそのほかの部門の間には十分な遮音壁により区画し、相互の遮音に配慮します。

災害時に必要となる機能を、日常的な活動の場に活用します

●防災意識を備えた活動拠点づくり

●日常利用の延長にある災害時利用

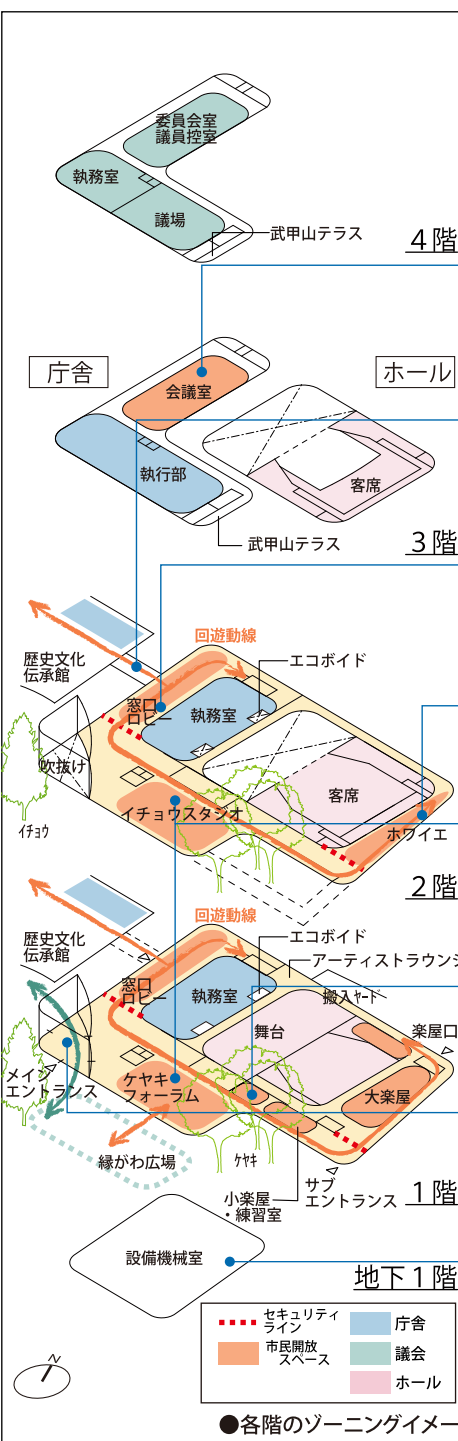
1階は「ケヤキフォーラム」を中心に、その周囲を物資保管所や緊急車輛駐車場などの諸機能が取り囲む中心的な場とします。2階の共用部、ホワイエ等のオープンスペースは避難場所となります。3階には災害対策本部機能を集約し機能性を高めます。また、広場にマンホールトイレを設けます。

●優れた耐震性能の確保

市庁舎として十分な耐震性能を確保した上で、免震構造等の採否については基本設計の段階でコスト等もふまえ総合的に検討を行います。

●非常用発電設備の設置

災害時の機能維持のために、3日分の非常用発電設備の燃料を備蓄します。



●相互利用、相乗効果を

生み出す工夫

会議室、共用部分の柔軟な運用等、下記の工夫によりコンパクトで様々な利用ができる施設計画を実現します。

●柔軟な運用が可能な会議室

3階の執行部に接した会議室は、日常の会議利用のほか、災害発生時に防災本部機能となるよう備えます。

●ブリッジによる機能の連携

歴史文化伝承館に面して窓口・会議室を集約。歴史文化伝承館とブリッジで接続し、1本の動線に全ての機能が顔を出す構成とします。

●開放的な窓口ロビー

相談ブースや市政ギャラリー等の機能を集約した開放的な窓口ロビーとします。

●ホワイエの転用利用

公演のない時は、ギャラリー等としての利用が可能です。

●多目的に利用可能なケヤキフォーラムとイチョウスタジオ

サロンコンサート、ギャラリー、ワークショップ、会議室、講演会、練習室等に利用

●練習室として利用できる小楽屋

ホールの小楽屋を共用部からも使用できる配置とし、小会議室や楽器の練習室等に貸し出せます。

●扇型のエントランスホール

歴史文化伝承館の円形状を連続させたエントランスホールは、建具を開け放つことで、一体的な屋外空間として利用できます。

●必要最小限の地階面積

地階は必要最小限とし、地下掘削量の削減、コストダウンを図ります。

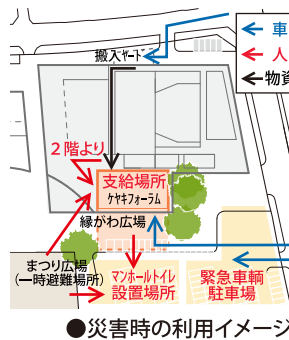


Table with 2 columns: 災害時 (Disaster Time) and 備蓄 (Stockpile). It lists various disaster preparedness measures such as fire response, earthquake resistance, and emergency equipment.